

## 総督フェストゥスの前で

2023年6月4日

使徒の働き 25章1～22節

序：前任の総督フェリクスは、パウロの審理を未解決のまま、2年間監禁

### I. 新総督フェストゥス（有能、実行型）

(1)カイサリアに赴任到着3日後にエルサレムへ（儀礼的訪問・あいさつ）  
おもだった者たち（階級）⇒ 有力者たち（実力）

(2)ユダヤ人の指導者たちの思惑

着任間もない総督に、2年間未処理のパウロの問題を持ち出し、訴えた  
慣れていない総督を促して、かねてからのパウロ暗殺を実行すべく、懇願  
それには、パウロをエルサレムに連れ戻す途中で待ち伏せて殺す手はず  
彼らの願いは2年間変わっていなかった

(3)フェストゥスの返答

①ユダヤ人の罠（ユダヤ社会や人々に関しての理解が不十分な総督、ここで  
一気に自分たちの計画通りにことを運ぼうとの意図）を巧みにかわした

②パウロをエルサレムには呼び寄せない

パウロが監禁されているのはカイサリア  
自分もすぐにカイサリアに待っている務めのために帰らねばならない  
パウロを訴えたかったら、カイサリアまで自分と一緒に来るように  
そこで総督が裁判をする

(4)ユダヤ人の有力者たちがカイサリアに同行

### II. パウロ出廷

(1)総督が帰還した翌日、出廷を命じられたパウロ  
エルサレムから来たユダヤ人に取り囲まれた物々しい中での裁判

(2)多くの思い罪状（24章と同じ）

①ユダヤ人の律法に違反（キリストの救いの福音は異端）  
②宮を汚した罪（異邦人を神殿に連れ込んだ）  
③カエサルに対する罪（暴動、反乱を企てた）  
しかし、具体的な根拠なし、法的には効力なし、有罪とはならない

(3)総督はユダヤ人の有力者たちを敵に回したくない（公平さ）  
パウロにエルサレムでの裁判を打診

(4)パウロはローマに行って、カエサルの前で上訴すると答えた  
今、すでにカエサルの法廷に立っている  
ローマ市民としては当然の権利  
ユダヤ人に対しては、無罪  
死に値する罪を犯しているなら言い逃れをするつもりはない  
しかし、何も証拠なし、一方的な訴えだから、彼らに引き渡すなら不法

(5)総督の決定

カエサルに上訴したのだから、ローマに行け  
その手続き、実行は自分の責任で遂行

Ⅲ. アグリッパ王がフェストウスを表敬訪問

- (1) 妹ベルニケ（愛人）同伴（前総督の妻ドルシラは末妹）  
ローマの厚意で領地所有、良好な関係を保つ必要大

(2) 総督はパウロの件を持ち出し、先日の裁判の経緯を説明

- ① エルサレムのユダヤ人からの訴え
- ② ローマ市民は裁判を受けずに引き渡されることはない（法による保護）
- ③ カイサリアで裁判
- ④ 有効な告発理由なし
- ⑤ 争点は宗教的な問題（ローマの法では政治犯罪、刑事犯罪をさばくのみ）  
イエスの復活（フェストウスの権限外、どう扱うか不明）  
＝信仰に関しては最重要問題だが総督は軽視
- ⑥ パウロに二つの選択肢を示して選ばせる
  - ◇ エルサレムに戻って裁判を受ける  
エルサレムで発生した事件  
ユダヤ人の宗教に関する問題  
ユダヤ議会はエルサレムにパウロを連れ戻すことを懇願・希望

◇ ローマ市民は不当な判決に対し、カエサルの方廷に上訴できる権利あり  
自分の出身地を統治・管轄する権力に保護される

- ⑦ 当然、パウロは皇帝に上訴
- ⑧ 総督はパウロをローマに送り出すまで保護（パウロは皇帝に対して無罪）

Ⅳ. アグリッパ王が大いに関心を示す

- ① パウロに面会したい、話を聞いてみたい
- ② 総督は皇帝に書き送る手紙の内容のための情報をえるため取り調べたい  
二人の興味・目的が一致 ⇒ 翌日の謁見

Ⅴ. 結び

- (1) 民は為政者、指導者の考えによって左右される  
パウロにとっての二人のローマ総督

(2) パウロの言動は常に一貫していた

∴ 律法に照らしても、ローマ法に照らしても自分の無罪を主張  
ローマに行ってカエサルの前でも、主キリストを証しする使命を確信  
それが、神から発したものであれば、神が成就し、栄光を現される

- (3) 支配者たちは自分の利益に基づいて、言うことや態度を変える  
しかし、不信者であっても、世の法や慣習を踏襲：自分の保身・務め遂行  
可変的

- (4) 世界の歴史、個人の生涯にも必ず表と裏がある  
どちらか一辺倒に片づけることはできない  
時代、支配者、置かれた状況・問題によって光と影（陰）は必ず生じる

- (5) 主の前に、より真実・忠実なきよい歩みを願い選択するのは個々の信仰者  
LOVE ALWAYS FINDS THE WAY  
OUR LORD LEADS US BY HIS WILL AND FOR US

- (6) だれでも、どんな状況でも主<sup>に</sup>あって希望を持っているなら、人は生きる  
コリント I 13・13